

令和3年度 スクールソーシャルワーカーの活動状況

配置中学校区数 12校区

S S W実人数

12名

1 S S Wの年間勤務時間数及び年間勤務日数

① 年間勤務時間数	① 4,549.5 時間
② 年間勤務日数	② 550.0 日
③ 平均勤務時間数（一日当たり）①／②	③ 8.3 時間/日

2 支援の対象となった児童生徒数

(実人数)

- ① 小学校
- ② 中学校
- ③ 特別支援学校

	対象児童生徒数（人）	
		うち継続者数
①	628	432
②	295	217
③	1	1
計	924	650

3 継続支援対象児童生徒の抱える問題と支援状況

(複数選択可)

- ① 不登校
- ② いじめ
- ③ 暴力行為
- ④ 児童虐待
- ⑤ 友人関係の問題（②を除く）
- ⑥ 非行・不良行為（③を除く）
- ⑦ 家庭環境の問題（④、⑪を除く）
- ⑧ 教職員等との関係の問題
- ⑨ 心身の健康・保健に関する問題
- ⑩ 発達障害等に関する問題
- ⑪ 貧困の問題（⑦を除く）
- ⑫ その他

件数	支援状況（件）				
	(a)問題が解決	(b)支援中であるが好転	(c)支援中	(d)その他	
①	387	5	39	331	12
②	9	0	2	3	4
③	7	0	6	0	1
④	33	4	9	18	2
⑤	39	0	12	22	5
⑥	16	1	2	10	3
⑦	297	4	61	218	14
⑧	31	2	8	16	5
⑨	95	3	20	63	9
⑩	206	3	33	160	10
⑪	32	2	6	23	1
⑫	142	9	43	75	15
計	1,294	33	241	939	81

4 訪問活動の回数

① 学校	① 620 回
② 家庭	② 284 回
③ 教育相談センター（適応指導教室含む）	③ 36 回
④ 教育委員会（③を除く所管機関も含む）	④ 6 回
⑤ その他関係機関	⑤ 62 回

計 1,008

5 成果と課題

- ・福祉的な視点から支援を行うことにより、学校と家庭との橋渡しの働きを担うことができた。
- ・支援の対象となった児童生徒や支援件数の増加よりも、学校や家庭からのニーズがより増えてきていると考えられる。
- ・ニーズが高まる一方で勤務日数が週1日と少ないため、深い関わりができにくい状況にある。
- ・関わりが深くなると時間外勤務が大幅に増える。
- ・教育相談センターにスクールソーシャルワーカーの基幹となる学校支援ソーシャルワーカーを配置したことでスクールソーシャルワーカーの支援力量の向上や、連携による多面的な支援で業務を円滑に遂行できるようになった。